

火曜会通信

発行日：平成15年4月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千備1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

「あたごさんとさげづくり」

坂根 俊彦

第14号で柴田久子さんが井原西鶴の伊丹郷町愛宕祭りを詠んだ歌碑を紹介されたので、私の過去の記憶、体験、学習から知りえた「あたごさん」について少し述べてみたい。

その1「愛宕山」で思い浮かぶのは、京都の愛宕山である。平安遷都以来王城鎮護の聖地で、この山頂には火除けの神と知られている愛宕神社があることは、すでに良く知られている。次は東京にある愛宕山でなぜ思い出すといえ、ここに大正15年日本放送協会（現NHK）が日本最初のラジオ放送用にアンテナを建て、コールサインJOAKとして放送していたと鮮明に記憶している。実をいえばこの山頂（標高26m）にある愛宕神社は慶長8年（1603）京都の愛宕神社を勧請（かんじょう）したものとイわれて、大江戸の火除け神として民間に広く信仰されていた。

その2「愛宕さん」（社、宮）宝塚市の小浜町は中世には周囲を環壕で護られた寺内町、そして江戸時代は宿場町として発展し、今日その面影を残している所である。ここへは我が火曜会の研修、またある団体を案内し、幾度か訪ねた折りに宿場内の北門跡と東門跡の両脇に愛宕宮が鎮座しているのが印象に残っていた。かつてこの町は人家が多数あり、また酒蔵もあったことから、火災が発生しやすいため、火除け神としてこのような場所に社をつくり町をあげて信仰した名残として存在している。

その3「愛宕さん」（祭り）伊丹郷町では、旧暦7月24日に愛宕火といって、本町通りに灯をともし愛宕祭りがおこなわれたと、寛政10年（1798）刊「日本山海名産図会」に詳しく紹介されている。西鶴がこの愛宕祭りに関する句を詠んだのは、17世紀の終わり頃と思われる。この時代の元禄期（1688～1704）は徳川家康が江戸幕府を開いて約1世紀が経った時期である。この間新田開発や農業技術などが飛躍的に発展し、人口も増え江戸は100万都市であった云われている。伊丹酒造業もそれに伴って「下り酒」の製造で栄え、酒造家ギルド（酒家年行事）が確立した。このギルドのもとに、新酒造りの始め神事として愛宕祭りを取り仕切ったと考えられる。当時の愛宕社の場所は寛政8年の伊丹細見図を調べると、北ノ口町に「アタゴ山」とあるので、ここにあったとみてよい。現在は産業道路開通のためなくなり、猪名野神社に合祀されている。

主な行事予定（5月から6月）

5月13日（火）	定例会「春季研修旅行事前勉強会」	中央公民館
5月27日（火）	春季研修旅行「五色塚古墳、県立歴史博物館」	市役所前集合8時
6月10日（火）	定例会「分科会勉強会」	中央公民館

「てるてるぼーず」をつくり、11月19日(火)が良い天気、暖かい日でありますようにと祈り、県外研修当日を迎えました。朝の間は少し肌寒く、どうなることかと心配しながらの出発でしたが、昼近くにはお天気もよくなって気温もあがり、ほっと胸をなでおろしました。

万福寺では、若いお坊さんのお話を聞き、厳かな気持ちになりました。そのお話の後、お寺の境内をゆっくりと見学しました。

万福寺の普茶料理は大人気のように、2ヶ月前でも予約が取れず、ちょっと残念でしたが、門前にある「萬」でいただいた普茶弁当もなかなかの味でした。お酒も少し入り、会員さん達の雰囲気も和やかなものになりました。その和やかな雰囲気のままお酒の本場伏見へ、バスで移動しました

伏見は、豊臣秀吉の城下町として開け、江戸時代から水運で賑わったといわれています。豊かな地下水に恵まれ、明治から大正時代より今日まで、酒どころとして酒蔵が建ち並び風格のあるたたずまいをみせています。

平成10年より観光十石舟が運行しています。その十石舟を 私達火曜会の人たちだけで“貸しきり”楽しく観光をしようとおもい、その準備をしていましたが、ちょっと行き違いがあったようで、他のお客さんと相乗りになり、慌ててしまいました。それでものんびりと舟にゆられていると、心が解き放たれていくようでした。

その後、大倉酒造の資料館を見学し、お酒の試飲もし、お土産をもらい自由行動になりました。寺田屋の見学、街の散策……おもいおもいに時間を過ごしました。私は、事前に案内のあった「富翁」の酒蔵と工場見学に参加しました。「富翁」では、親切に工場を案内してもらいました。お酒が飲めない私ですが、そこで試飲した搾りたてのお酒は、とろりとしていて甘く、豊かな香りも有り、とてもおいしいものでした。ほろ酔い気分で、うきうきした心を抑えながら、バスに乗りました。最後に、名水『御香水』が湧く、「御香宮」に寄りました。

予定通り、全員がケガもなく、無事に帰れたことを、とても感謝しました。ご参加下さいましたみなさま、ありがとうございました。最後になりましたが、この研修旅行の幹事を務め、行事成功のために尽力された、柴田久子さんに、幹事の1人としてあまり役に立たなかった反省も込めて、感謝と労をねぎらって筆をおきます。楽しい旅をありがとうございました。



<Q&Aコーナー>

- Q 猪名野神社の本殿前にあるに二柱の注連柱に「修理」と「固成」と彫ってあるが、出典は何でしょうか（写真参照）。



- A 出典は「古事記」上の巻です。参考までに、関連する箇所を既述してみますと次のとおりです。

於是、天神命以、詔伊耶那岐命、伊耶那美命二柱神、
修理固成是多陀用幣流之國、賜天沼矛而言依賜也

「訳」

於是、天つ神諸ノ命以、伊耶那岐命、伊耶那美命ノ二柱の神に詔らさく、「是の多陀用幣流國を修理メ固メ成せ」トノらして、天ノ沼矛を賜ひ而、言依らて賜ひき。

(注) 傍訓→仮名名、ヲコト点を平仮名で表した。

参考図書：日本思想史大系（岩波書店）

活動報告

本号より曜日担当グループの活動を順次紹介します。今回は水曜日担当のAグループです。

Aグループは7名のメンバーで毎週水曜日に郷町館ガイドを担当しています。事前に予約の入っている団体には、メンバー全員で対応し、それ以外は3名が交替で旧岡田家に待機し、来館者の案内を務めています。昨年4月から活動を開始して一年を経過したのですが、振り返りますと苦労したこと、楽しかったこと多々ありました。夏の暑さ、冬の寒さもさることながら、ガイド活動を通じて来館者の人たちと会話し、教えていただくことや「伊丹を見直したよ」と飲んでくださる地元の方に励まされて、それを活動のエネルギーに変えている昨今です。

□お知らせコーナー□

主な活動の記録<郷町館ガイド>

1月22日(水)	塚口コープ歴史散歩講座	26人	担当	中尾他2名
1月22日(水)	有岡小学校3年生	約100人	担当	A班
1月29日(水)	ひょうごシニヤクラブ	約50人	担当	A班
1月31日(金)	摂陽民生委員会	25人	担当	C班
2月11日(火)	公民館・旧中国語同好会	9人	担当	坂根・渡邊
2月11日(火)	きさらぎ俳句会	12人	担当	坂根
2月12日(水)	しゃべろう会(松下電器OB会)	60人	担当	A班
2月16日(日)	ガールスカウト86団	22人	担当	E班
2月20日(木)	阪急ニューライフくらぶ	30人	担当	B班
2月28日(金)	東大阪・校区福祉委員長管外研修会	40人	担当	C班
3月6日(木)	NHK文化講座 徳島県小松市	69人	担当	B班
3月27日(木)	大阪府南河内郡 福友会	25人	担当	B班

新会員の紹介

「文化財ボランティア養成講座」を終了された8名の方が4月から入会されました。皆様と共に楽しく活動してまいりましょう。よろしくお願ひ致します。

有本 恵美子さん 稲沢 清美さん 岡井 祥子さん 岡本 政俊さん
 亀田 栄三郎さん 小林 啓子さん 永野 昭一さん 林 享さん

投稿コーナー

難波 寿美

三つうろこ白く染めぬき文化財酒蔵
 町屋の大戸を飾る

屋を人を支え通して三百年ひのき柱の
 すすけてたかし

店二階童子泣きにし夜のいくつ知るや
 知らでや掛かるはしこの

幕末の商談ひとつ「剣菱」の酒一樽は
 書画一幅なり

編集後記

本号は四月発刊予定でしたが、編集員の交代のため一ヶ月遅れとなりました。先任者服部さんには四年間ご苦勞様でした。今回塩井・柴田久・森本・坂根の四名で担当しますのでよろしくご協力下さい。